

資料 2

令和 7 年 8 月 22 日

美咲町教育委員会
教育長 藤原 敬三 様

評価者 服部 康正
(岡山大学大学院 教育学研究科)

「美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」に関する所見

I はじめに

「令和 6 度事業対象の美咲町教育委員会事務の点検・評価に関する報告書」について、外部の第三者としての視点で検討評価させていただいた。本年度は第三次美咲町教育振興基本計画（令和 3 年度～令和 7 年度）の 4 年目、丁度折り返し終期に向かう時期に当たる。その観点から美咲町教育委員会が所掌する膨大な範囲の事業の中で学校教育に重点を置いた執行状況について関係資料の提供を受けた。教育委員会と学校が密に連携・協力・工夫し、鋭意努力され、その内容がほぼ達成できていることを高く評価したい。

第三次美咲町教育振興基本計画で示された小中一貫教育の充実を図りながら、令和 5 年度に開校している義務教育学校旭学園の活躍に続き、令和 6 年度柵原学園も開校している。

II 教育委員会の組織及び活動について

教育委員会の活動は、定例会議のほか研修会への参加、学校訪問など精力的に実施されている。前年度同様全ての学校・園・図書館を訪問し、現場を知ろうとする細かな配慮を感じる。会議の内容は、教育行政の重点目標及び施策、人事、施設管理、予算決算事務、就学、教育振興基本計画、義務教育学校、教育課程、学校の様子、学力状況等多くの議題が、十分な時間をかけ、必要に応じては指導主事等を加えて審議・協議ができている。

III 教育委員会が管理執行する事務について

1 基本的・総務的事務

教育行政重点施策の策定等、基本方針の多くは事務局が原案や資料を提出し、教育委員会として協議や審議を行い、美咲町教育振興基本計画を基に年度ごとに重点方策を設けて推進してきている。また、近年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律改正等に伴い、必要と考えられる規則等について積極的に制定・改正を行っていることを評価したい。

旭地域に令和５年度、柵原地域に令和６年度義務教育学校が創設された。これに先立ち、令和２年度から美咲町内全小中学校において中央地域、旭地域、柵原地域それぞれを小中一貫教育校に指定し、義務教育９年間に一貫性のある教育を研究・展開していくことを重点に取り組んでおられたことを高く評価したい。

この構想の基、令和５年度から開校している旭学園、令和６年度から開校している柵原学園の実践や地域の方たちの取組が、町内外から高い評価を受け、県外からも視察があるというのも事実である。

２ 人的管理に属する事務

県費負担教職員の人事については、津山教育事務所と連携を図りながら、喫緊の課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化は重要である。個々の教職員の学級経営力向上や指導力向上に向けて研修の充実が極めて必要なことである。校内だけの研修に留まらず、校外における研修の機会の提供や学校と教育委員会とが連携し、有益な研修を引き続き行っていたきたい。

また、今までになかった新たな問題や教職員の多忙化の対応など多岐にわたる課題に対し、校長、教頭の手腕が問われる場面は多い。その意味でも今日の学校運営は、管理職の能力とともに学校と教育委員会とが密に「情報共有」し、連携しながら、ケースによっては支援を、必要によっては指導助言等を行うことが重要と考える。

特別支援教育を充実していくことはとても重要である。そのための体制づくりをしっかりとすることが基本であるが、指導を要する児童・生徒を目の前にした時、県費負担教員の配置基準による教員数だけでは指導しきれない場合、適切に町費による教育支援員の配置・負担を行っていることがすばらしい。

Ⅳ 主要事業の点検評価について

美咲の学校教育グランドデザインは基本目標「自ら学び 共につながり みんなの夢を育む 美咲の人づくり」に向け、今年度は重点施策『小中一貫教育の推進』の中に英語教育の充実という新たな取組みも設け、「自立 共生 郷土を愛する心」を育み、美咲町の「ひと 輝くまち みさき」を実現しようとしている。この１枚物のグランドデザインや美咲 **Five Dreams** プランはとても分かりやすいシートになっている。

1 重点施策

(1) 小中一貫教育の推進

○乗り入れ授業は全校で実施できていて、小中一貫教育の推進が図られている。

また、各校で郷土学習の開拓として生活科・総合的な学習の時間を中心に新たな教材を開発し、実施してきている状況もよい。

探究的な学習の推進では生活科・総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習の推進を図ることができているなど成果があげられる。今後も探究的な学びがさらに深まっていくことを望む。

○キャリア教育の推進では例年実施されている令和6年度美咲町生活学習アンケートの結果は「自分にはよいところがある」小87%中87%、「課題解決に取り組む」小85%中85%、「友達と仲良く助け合う」小97%中96%「将来の夢や目標を持つ」小88%中74%と昨年度と同じようにどの項目も高い数値を示している。その中でも昨年度唯一将来像について中69%と低い数値であったところが気になっていたが、5%伸びていることは注目したい。

○コミュニティ・スクールの推進では、地域とともにある学校づくり、地域と学校の一体的な推進を目標として充実が図られているようだ。旭学園学校運営協議会(年5回開催)では、4－3－2制、保・学園一貫教育、郷土学習、英語教育など特色ある旭学園の教育目標、達成したいミッション、目指す児童生徒像を共有し「あさひの未来ワーク2023」として地域の魅力や課題について生徒と地域の方々と意見交換ができていることがとてもすばらしい。また、8年生が「あさひの未来」4つの提案をする取組などこれまでにない学びや生徒の伸びを感じるものが生まれてきていて、すばらしい。

柵原中学校区学校運営協議会(年4回開催)では、令和6年度から柵原学園グランドデザインを共有し、主体的に探求する柵原ドリーム学の実践について地域と意見交換ができています。DonDon祭りなど地域の取組に積極的に参加することを決めるなど、学校と地域が協働していることが嬉しい。

中央中学校区のそれぞれの学校運営協議会も同じように学校と地域がWin-Winの関係を作りだす取り組みが年々増えてきていることをうれしく思うと同時に、中学校区で入園から中学校卒業まで連続した健全育成に取り組んでいることを評価したい。

2 基本施策

(1) 確かな学力プラン(知)

①授業改善の推進・学力向上の支援

令和6年度は美咲町生活・学習状況アンケートの「授業の内容はよくわかる」の肯定率は小学校では概ね向上している、中学校では全ての教科で肯定的回答率の低下がみられたことは残念である。特に社会－4.4、数学－5.3が大幅である。この結果を十分分析する必要があると思う。生徒の学ぶ意欲と基礎的な学習の積み上げなどいろいろなことが考えられるが、昨年度も述べたが、授業にひと工夫がいるような気がする。

小中学校ともに、めあて・話し合う活動の肯定的回答率が90%を上回り、主体的・振り返りの肯定的回答率も85%を上回った結果をみると、授業づくりが着実に定着してきていることが分かる。

②家庭学習の習慣形成及び読書の習慣形成の推進

学校での授業が充実してきているのに、家庭学習の時間については残念ながら年々「平日家庭学習を1時間以上」するが小学校6年も中学生もマイナスの結果になっている。ゲームやスマホ等の時間が増加していることは間違いない。家庭での過ごし方、すなわちゲームやスマホ等の時間が増加すれば家庭学習の時間が減ることを意味していると言わざるをえないのである。このことを少し詳しくみると小学校の時はそこまでは表れないが、中学校になると顕著に表れる。そう考えると保護者が小学校時にスマホを持たせるのであれば、持たせ方、使い方を児童とよく話し合っておくことが大切と思う。児童生徒のよりよい生活習慣を願うばかりである。保護者に十分認識してもらい、学校と家庭が協働した取組をおこなうことが重要と考える。

読書活動の推進は引き続き頑張っていたきたいと思う。

③特別支援教育の充実

特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりをするために、全校で校内研修を実施し、講師派遣や専門機関との連携も精力的にできている。個別支援指導計画の作成100%、個別計画の点検整備の実施も素晴らしい。

④情報教育の推進

令和5年度美咲町生活・学習アンケート「毎日1回以上の活用」、令和6年度美咲町生活・学習アンケート「1日3回以上タブレットを活用した授業」と内容が違うので比較できないが、授業でのタブレット活用が進んでいることを高く評価したい。今までのタブレット端末を活用した授業づくり研修会の開催やタブレット端末を効果的に活用した授業公開を全校で実施してきたことの成果である。デジタル教科書を積極的に活用して

いることも高く評価したい。

⑤郷土学習の充実

全ての小中学校で郷土に関する総合的な学習に取り組んでいることがとてもよいことである。また、地域活性化へ向けた探求的な学習の成果が全ての学校でみられていることもすばらしい。今年度実施された全国学力・学習調査は公表されていないが、この項目の児童生徒がどう答えたかその結果を見てみたい気がする。

⑥英語学習の充実

ここでは英語交流等を通した英語力・発話力の向上を図る取組を高く評価したい。英語を学んで実際に自分から英語を用いて会話する機会は極めて少ないからである。そのことを考えると非常に進んだ取組と言える。また、交流事業(土佐山学舎)に生徒が11名参加し、充実していることもすばらしいことである。英語力の向上と国際感覚の育成などを考えている美咲町はとても充実していると思う。

⑦保小接続の推進

昨年度に続き、年3回の担当者会や年間の保小交流や授業、保育実践の参観・体験研修を実施したことや小学校ごとに保育体験や参観を行い、次年度のスタートカリキュラムを作成・実施できている。

(2) 豊かな心プラン(徳)

①人権教育・道徳教育の充実

日頃から人権意識をもち、人権感覚を高める環境の整備は大切である。令和6年度も人権週間に合わせ、全校で道徳の授業公開を行ったこと、また、「いじめについて考える週間」を設定し、自分の考えを書き、掲示する等の学校独自の取組も評価しておきたい。

②協同的な人間関係づくり

費用はかかるが、質問紙調査「hyper-QU」で学級満足度・学校生活度尺度・ソーシャルスキル尺度を用いての客観的データを活用することは、学級経営、人間関係づくりでは有効である。また、児童会、生徒会のあいさつ運動は今後も続けていただきたい。さらに地域、保護者も巻き込んでのあいさつ運動に広がっていくことが望ましいと考える。

③いじめ・不登校の対応

いじめの校内認知件数は小学校、中学校とも昨年度に比べ減少しているが、解消率が下がっているのが気になる。やはり実態把握と早期対応が一番と考える。

長期欠席・不登校については、美咲町に限ったことではないが、出現率が

増える一方である。何としてでも出現率を減らしたいと思う。結論から言うと、是非とも小学校でこの対応を頑張ってもらいたいと思う。小学校で不登校児童が増えると、中学校入学時から現存することになる。数字からも小学校長欠 19 人内不登校 8 人、中学校長欠 30 人内不登校 22 人とそのことを証明している。そう考えると小学校で不登校児童を生まないということが大切になってくる。そのためには学校全体で夢育の推進、生徒指導提要に書かれている 4 つの観点を意識した授業など日頃からの取組を実践することも大切ではないだろうか。

教育委員会、学校どちらもいろいろな対応策で取り組んでいただいていることは重々承知しているが、今後もどうか粘り強く頑張っていただきたい。

(3) 健やかな体プラン(体)

①生活習慣の確立及び健康教育の推進

基本的な生活習慣の確立で大切なことは、時間を守り、朝食は勿論 3 食をしっかりと、十分な睡眠をとることである。令和 6 年度全国学力・学習状況調査「朝食を毎日食べる」結果では、小 95.7%、中 93.9%と非常によい数値であった。ところが令和 6 度美咲町生活・学習アンケート「一日の睡眠時間」は小 8 時間以上小 53.0%、中 62.6%と睡眠時間の目標指数と児童生徒の実態とは大きくかけ離れていると言わざるをえない。特に睡眠時間の確保が体調維持には重要と考える。小学生の約半分が睡眠不足と考えると重大な問題である。子どもにとって十分な睡眠時間の確保こそ大切なのであるから、引き続き取組を粘り強く取り組んでほしいと思う。

スマートフォンの利用時間が増えることは、児童生徒の健康を考えると睡眠時間が減るので好ましいことではない。確かに中学校 4.5 ポイント減少するなど生徒自身が主体的に解決していこうとする取組もなされ改善の兆しも見えるが、家庭のルールづくりが大切ある。

②体力・運動能力の向上

この項目は年度が違えば、或いは学年、対象者が違えばこれほど結果が違うということをまた新たに認識した。小学 5 年男女共低く、中学 2 年は男女共に高い。昨年度とはまるで違う。中学 2 年が男女共保健体育の授業が楽しいと答えているのはとてもよいことである。

(4) 美咲町立学校教育職員の働き方改革

昨年度同様本年度も学校教職員の働き方改革を応援・支援・推進を美咲町教育委員会は真摯に受け止め、指導や設備の整備・業務支援等をしていただいている。その中身は「美咲町立学校における働き改革ワークスタイ

ルプラン」に示されている。学校閉庁日の年 14 日実施、定時退庁日の月 1 回以上の実施、総合型校務支援システムによる成績処理等の業務支援、SC や町費支援員等の学校課題に応じた専門スタッフ等の導入、地域学校協働活動や学校運営協議会制度による学校を応援・支援する体制づくり、「美咲町部活動の在り方に関する方針」に沿う部活動休養日等の適正な実施などである。そのような町教育委員会のフォローがあり、1 年間を通じ、超過勤務時間平均 45 時間を全学校で下回ることが達成できている、とても素晴らしいことである。だからこそ各々の教員は、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことを頑張ってもらいたいのである。

V おわりに

昨年度は第 73 回全国へき地教育研究大会岡山大会が開催され、旭学園に多くの参加者が訪れ、旭学園の実践を大いに称賛したことを記したと思う。

そして、令和 6 年 4 月に開校した柵原学園も負けず劣らず柵原ドリム学を力強く進めている。

中央中学校区は 3 校それぞれの独自の活動を取組みつつも中央小中一貫教育校として連携を深めながら力強く邁進している。

今実際には「第三次美咲町教育振興基本計画」の最終年度仕上げに取り組んでいる最中でもある。令和 8 年度以降の「第四次美咲町教育振興基本計画」策定のためにも、残り半年でさらに改善を図っていくようお願いしたい。

今回で私は 4 回目の評価をさせていただいたが、昨年度同様美咲町教育委員会及び美咲町の教職員が、真摯にしかも全力でその職務に取り組んでいることを確認でき、その取り組み方、姿勢に心から敬意を表したい。

毎回同じ言葉になるが、郷土美咲に誇りをもち、未来をきり拓いていく子どもたちが力強く、生き生きと育っていくことを切に願っている。